

## 調査 B 参考事例

### 優良事例① 退院後の服薬管理を見据えた処方提案

【症例】80歳女性 長男夫婦と3人暮らし

【主病名】脳梗塞

【既往歴】糖尿病、高血圧、不眠症

【背景】突然の右麻痺出現。近隣の総合病院受診し、そのまま脳神経外科へ入院となった。保存的治療がされ、二次予防目的で抗血小板薬が追加になった。

【持参薬】

アダラートL錠 20mg	1回1錠	1日2回朝、夕食後	
ノボラピッド注フレックスペン	朝4単位	昼4単位	夕4単位
バイアスピリン錠 100mg	1回1錠	1日1回朝食後	
タケプロンOD錠 15mg	1回1錠	1日1回朝食後	
マイスリー錠 5mg	1回1錠	1日1回寝る前	

【薬剤師としての関わり】

発症前は自分でインスリン注射も施行し、内服管理もされていた。今回の発症により右麻痺が出現し、リハビリを行っても自分でインスリン自己注射は難しいと判断。退院後は家族が薬の管理をした方が良いとの結論になった。しかし、長男夫婦は共働きのため、昼は家にほとんどいないことが多い。退院後の昼の薬を管理する人がいないため、毎食施行していたインスリンを家族が必ずいる時間帯である朝食時のものへ変更提案した。インスリンだけでは血糖管理が不良のために、内服薬も1日1回服用のものを追加提案した。

【処方提案及び退院処方】

アダラートL錠 20mg	1回1錠	1日2回朝、夕食後
トレシーバ注フレックスタッチ	朝8単位	
ジャヌビア錠 50mg	1回1錠	1日1回朝食後
バイアスピリン錠 100mg	1回1錠	1日1回朝食後
タケプロンOD錠 15mg	1回1錠	1日1回朝食後
マイスリー錠 5mg	1回1錠	1日1回寝る前

## 優良事例② 薬物有害事象を疑い、処方変更を提案

【症例】82歳女性

【主病名】左大腿骨転子部骨折

【既往歴】心房細動、心不全、うつ病、神経因性膀胱

【背景】自宅にて転倒。近隣の総合病院受診し、上記診断で手術。術後リハビリ目的で当院へ転院。

【入院時処方】

マイスリー錠 5mg	1回1錠	1日1回寝る前
アモバン錠 7.5mg	1回1錠	1日1回寝る前
ルジオミール錠 25mg	1回1錠	1日3回毎食後
エチゾラム錠 1mg	1回1錠	1日3回毎食後
エカード HD 錠	1回1錠	1日1回朝食後
イグザレルト錠 10mg	1回1錠	1日1回朝食後
ウブレチド錠 5mg	1回1錠	1日1回朝食後
エبرانチルカプセル 15mg	1回1カプセル	1日3回毎食後
ベサコリン散 5%	1回0.3g	1日3回毎食後
ツムラ猪苓湯エキス顆粒	1回2.5g	1日2回朝、夕食前

【薬剤師としての関わり】

複数の向精神薬を服用していることから、薬剤による転倒の可能性を考えた。本人、家族へ薬剤の減量を提案し、その結果主治医と相談の上、減量した。また、この患者は受傷前から尿閉があり、家人が自宅にて間欠導尿を行っていた。ルジオミール錠は尿閉患者へ禁忌であることも踏まえ、中止を提案した。患者は処方変更後も不眠を訴えることもなく、また悲観的な行動や言動も見られなかった。排尿障害も改善され、導尿の必要はなくなった。

【処方提案及び退院処方】

ルネスタ錠 1mg	1回2錠	1日1回寝る前
デバス錠 0.5mg	1回1錠	1日3回毎食後
エカード HD 錠	1回1錠	1日1回朝食後
イグザレルト錠 10mg	1回1錠	1日1回朝食後
ウブレチド錠 5mg	1回1錠	1日1回朝食後
エبرانチルカプセル 15mg	1回1カプセル	1日3回毎食後

### 優良事例③ 退院後の服薬管理を見据えた処方、服薬管理方法提案

【症例】80歳女性 長男と2人暮らし

【主病名】右膝蓋骨骨折

【既往歴】右乳がん、逆流性食道炎、両目白内障、左橈骨遠位端骨折  
右肩骨折

【背景】自宅のカーペットにつまずき転倒。自宅療養困難のため、安静治療目的にて入院。

【持参薬】

フェルムカプセル 100mg	1回1カプセル	1日1回朝食後
アテレック錠 10mg	1回1錠	1日1回朝食後
タケキャブ錠 20mg	1回1錠	1日1回朝食後
マルファ配合内服液	1回20mL	1日2回朝夕食後
マグミット錠 250mg	1回1錠	1日3回毎食後（自己調節可）
ボノテオ錠 50mg	1回1錠	4週に1回 起床時
エディロールカプセル 0.75 $\mu$ g	1回1カプセル	1日1回朝食後
カロナール 200mg	1回2錠	1日3回毎食後

【薬剤師としての関わり】

入院前は自分で PTP 管理されていたが、入院後は一包化看護師管理されていた。自宅退院に向けて服薬ボックスを使用して1日配薬から服薬管理訓練を開始した。

8種類の処方薬の見直しを行った結果、服用回数は、1日1回朝食後のみとなった。しかし、1日配薬訓練中に薬剤の紛失があり、再度、服薬管理が看護師管理とした。Mini-Mental State Examination (MMSE) を実施したところ、24点/30点で時間の見当識は保たれていたため、ご家族、本人へ服薬カレンダーの使用を提案した結果、自己管理可能となった。

【処方提案及び退院処方】

処方提案：マルファ配合内服液中止（胃部症状なくタケキャブ内服中のため）

カロナール中止（疼痛訴えなく、中止後の疼痛なし）

マグミットを中止（排便コントロール良好のため）

退院処方：フェロミア錠 50mg	1回1錠	1日1回朝食後
アテレック錠 10mg	1回1錠	1日1回朝食後
タケキャブ錠 20mg	1回1錠	1日1回朝食後
エディロールカプセル 0.75 $\mu$ g	1回1カプセル	1日1回朝食後
ボノテオ錠 50mg	1回1錠	4週に1回 起床時

優良事例④ 残薬多数の症例に、かかりつけ薬局を提案

【症例】78歳女性 夫と2人暮らし

【主病名】第12胸椎圧迫骨折

【既往歴】自己免疫性肝炎、肝臓、糖尿病、高血圧症、パーキンソン病

【背景】自宅にて転倒。疼痛続き日常生活に支障あり安静治療目的にて入院

【入院時処方】

トヨファロールカプセル 0.5μg	1回1カプセル	1日1回朝食後
アムロジピン錠 5mg	1回1錠	1日1回朝食後
バルサルタン錠 40mg	1回1錠	1日1回昼食後
ファモチジン錠 10mg	1回1錠	1日2回朝食後・寝る前
プロチゾラム錠 0.25mg	1回0.5錠	1日1回寝る前
パーキストン配合錠 L 100mg	1回1錠	1日3回毎食後
ウルソデオキシコール酸錠 100mg	1回2錠	1日3回毎食後
カロリーールゼリー40.496%	1回1個	1回3回毎食後

【薬剤師としての関わり】

持参薬確認時、約90日分の残薬、中でも昼食後は約120日分の残薬があった。4か所の医療機関を受診され、それぞれの4か所の保険薬局にて調剤されていた。聴取により、食事回数が1日2回のことが多く昼食後が服用できていないことが分かった。パーキンソン症状コントロールのため、服薬回数を減じることができなかつたため、日中の確薬を検討しなければならなかつた。そのため、退院カンファレンスに参加し、本人、家族へかかりつけ薬局を持つことを提案し、一元化することに了承を得た。退院後は、かかりつけ薬局へ残薬多数の状況、受診状況を電話で情報提供を行い、フォローを依頼した。

【処方提案及び退院処方】

カルフィーナ 0.5μg	1回1錠	1日1回朝食後
アムロジピンOD錠 5mg	1回1錠	1日1回朝食後
プロチゾラム錠 0.25mg	1回0.5錠	1日1回寝る前
メネシット配合錠 100mg	1回1.5錠	1日3回毎食後
ナウゼリンOD錠 10mg	1回1錠	1日3回毎食後
(持参薬の残薬)		
バルサルタン錠 40mg	1回1錠	1日1回昼食後
ファモチジン錠 10mg	1回1錠	1日2回朝食後・寝る前
ウルソデオキシコール酸錠 100mg	1回2錠	1日3回毎食後
カロリーールゼリー40.496%	1回1個	1回3回毎食後